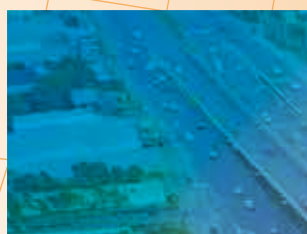




 **Trantechs**



CSR Report

Corporate Social Responsibility

2024

CONTENTS

トップメッセージ	01
会社概要	02
事業紹介	03
ステークホルダーエンゲージメント	06
ビジネスモデル	06
環境配慮商品	07
お客様	
生産能力強化	08
DX(デジタルトランスフォーメーション)	
への取り組み	08
お役立ち活動	09
アフターサービス	10
商品リサイクル	10
品質マネジメント	10

従業員

雇用促進	12
安全衛生・労使関係	13
人材育成	15

環境

環境マネジメント	16
環境パフォーマンスデータ	20
事業活動と環境影響	21

調達

社会貢献活動	24
--------------	----

コンプライアンス

コーポレートガバナンス	26
-------------------	----

トップメッセージ



株式会社トランテックス
代表取締役社長

森 茂

2023年度の成果と課題

2023年度を振り返ると、私たちは多くの変化と機会に対応しながら、いくつかの重要な成果を達成しました。まず、2022年1月に立ち上がった古河工場の新たな生産ラインが安定稼働し本社工場とのウイング生産2拠点化が本格化しましたが、古河工場の生産能力を当初計画の約1.5倍に改善することで顧客のニーズにより迅速に応える体制を整えました。さらに、小型トラックの販売台数は3,000台を超え、その拡販に成功しました。また、グローバル展開においても進展があり、タイ事業のフィージビリティスタディを完了し、台湾でのキット販売のトライアルも開始しました。これにより、海外市場への進出が加速し、グローバルなプレゼンスの拡大を実現できると確信しています。新商品の開発においても、小型低床ボデーの量産体制確立やFCEV（燃料電池電動車両）対応ボデーの導入を進め、次世代の移動手段に対応する製品ラインナップの充実を図りました。

一方で、多くの課題にも直面しました。生産体制の安定性を確保するための取り組みが進行中であり、効率的な生産プロセスの確立には依然として改善の余地があります。急激な生産回復に伴う人員増加と定着、そして資材費の高騰が私たちの取り組みの中での重要な課題となっています。このような状況下でも、私たちは現状に満足することなく、引き続き問題解決に向けて努力を重ねていきます。

2024年度の課題

2024年度においては、生産体制の最適化と収益性の向上を最優先課題と考えています。本社工場及び古河工場において増産を計画し、受注台数を確実に作り切ることを目指します。本社工場の生産活動における諸課題を解決する

ため、社内外の知識とノウハウを駆使し、生産ラインの効率化を図ることで安定した生産体制を整備し、顧客の期待に応える体制を構築します。また収益改善のため社内での地道な合理化活動によるコスト削減に加え、お客様のご理解を得ながら価格設定の最適化も進めていきます。

2024年度も引き続きカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを継続していきます。私たちは、製品のライフサイクル全体におけるCO₂排出削減を推進し、再生可能エネルギーの導入やエネルギー効率の向上に向けた技術革新に注力し、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、業界全体の環境負荷の低減に寄与していきます。

業界NO.1を目指す

私たちの視線は単なる課題の克服にとどまらず、業界におけるNo.1の地位を確立することに向けています。業界No.1を目指すという目標は、単にシェアの拡大や売上の増加だけでなく、社会的責任や持続可能性の観点からリーダーであり続けることを意味します。私たちは、社員一人ひとりがこのビジョンを共有し、日々の業務に反映させることで、着実にその目標に向かって進んでまいります。業界の最前線を走り続けることで、お客様にとっての最良のパートナーとなり、業界全体の発展に寄与する企業であり続ける所存です。

未来に向けた取り組み

持続可能な成長と競争力の強化のため構造改革を進めていきます。本社工場の再構築と古河工場のフル稼働を通じて最適な生産体制を整えて生産能力の最大化を図り、より安定した製品供給を可能にします。また、デジタルトランスフォーメーション（DX）の活用により、ビジネスモデルの効率化を進めます。これにより、業務のプロセスを最適化

し、迅速かつ柔軟な対応が可能なビジネス環境を整えます。そして職場環境の改善に向けた設備投資等を行うことによる健康経営や省人化の推進を通じて、社員の健康と働きやすさを確保します。また社員一人ひとりの成長を支えるための研修やキャリア開発プログラムを充実させ、持続的な組織成長を実現していきます。

最後に

企業の目標達成には全従業員の協力が不可欠です。私たちはこれからも共に努力し、チャレンジを乗り越え、持続可能な成長を実現してまいります。全従業員に加えてお客様、仕入先様、そして地域社会の皆様と共に、より良い未来を創造するために、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

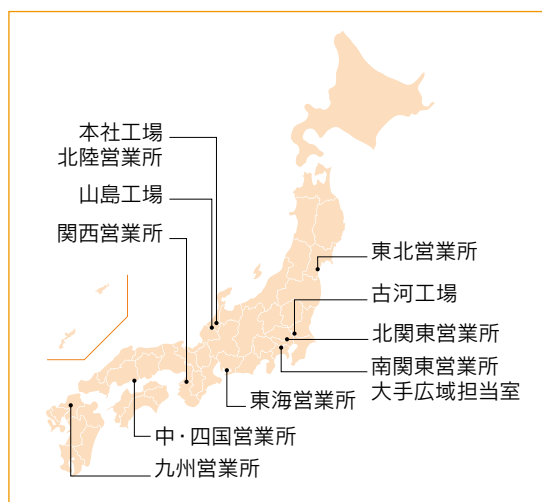
会社概要

株式会社 トランテックス

- 本社所在地 石川県白山市徳丸町670番地
- 設立 1930年3月
- 創立 2002年10月
- 資本金 11億円
- 従業員数 1,532名
- 製品 トラックボデー、特殊車両
- 生産・販売拠点



本社工場



トランテックス基本理念

基本理念は会社の使命と基本方針からなり、私たちトランテックスが社会の中で存在する意義、社会に対して果たすべき責任や方針を明確にしております。

会社使命

- 地球環境に配慮し、輸送文化を創造し、未来社会に貢献する
- お客様に信頼され、頼れるパートナーとして輸送・物流をリードする

基本方針

- 人と地球環境に配慮し、社会とのつながりを大切にする
- 常に技術革新に努め、お客様のお役に立つ商品やサービスを提供する
- 変化を的確に捉え、社会との調和を図り、グローバルな視点で事業展開を行う
- 社員の能力を最大限に発揮し、プロ集団としての総合力を高める

事業紹介

大・中・小型のトラックボデーを開発・設計・製造・販売し、アフターサービスとしてリニューアル工事や部品販売を行っています。

トラックボデー生産

■大型車シリーズ

長距離、大量輸送に欠かせない大型シリーズです。積載量重視型、容積重視型、専用輸送型など、おすすめ仕様のほか、用途に合わせた最適ボデーをご提案いたします。

ドライバン



ハイスター・バン（ハイスライダー付）

冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

ドライウイング



ハイウイングMAX

冷凍機付ウイング



ハイウイングMAXクール（冷凍機付）

冷凍ウイング



ハイウイング・コールド“S”

幌ウイング



ワンタッチ幌（手動式）

ブロック煽り



ハイブロック

■中型車シリーズ

配送から長距離輸送まで、あらゆるシーンで活躍する中型車シリーズです。軽量タイプや、おすすめ仕様のほか、用途に合わせたボデーをご提案いたします。

ドライバン



ハイスター・バン

冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍 (床下格納式リフター付)

冷凍機付ウイング



ハイウイングMAXクール (冷凍機付)

ドライウイング



ハイウイングMAX

幌ウイング



ワンタッチ幌 (手動式)

ブロック煽り



ハイブロック

■小型車シリーズ

市街区の集配から中・近距離輸送に最適、機敏な小型車シリーズです。

ドライバン



ハイスター・バン

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

ドライウイング



ハイウイングMAX

ブロック煽り



ハイブロック

リニューアル・部品販売

ボデーの載せ替え、キャブ・ボデー塗装、リヤ扉外板張替え、デザイン文字製作等や修理・ドレスアップ用の部品販売を行っています。

■ドレスアップ部品の一例

【アルミ製及びステンレス製サイドガード】



アルミ角パイプ型



ステンレス丸パイプ型



ステンレス角パイプ型

【煽り中間部ウイングロック】



オールステンレス製



BOX本体のみ
ステンレス製

ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーとの関わり

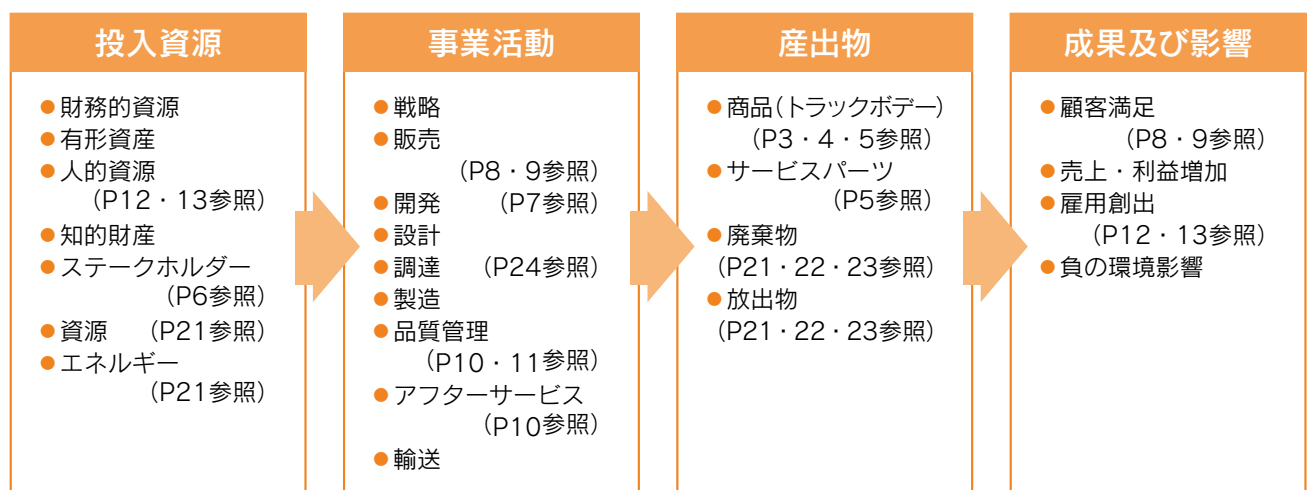
当社はお客様、仕入先様、従業員、地域社会を重要なステークホルダーと位置づけ、それぞれと良好な関係を維持することが安定的・持続的な成長には不可欠であると認識し、担当部署を中心に積極的なコミュニケーションを図っています。

ステークホルダー	重要な課題	コミュニケーション手段	参照頁
お客様	環境配慮商品の提供、お客様に役立つ情報提供、品質保証、迅速な対応とサポート	● 日常の営業活動 ● お役立ち活動メニューの提供 ● 定期訪問	P7・8 9・10・11
仕入先様	より良いパートナーシップに向けた適時・適切な情報共有	● 仕入先会議（毎月） ● 仕入先総会（年1回）	P24
従業員	労働安全衛生の推進、人材の積極採用・育成、処遇改善、コンプライアンス	● 社内報 ● 研修、教育 ● 安全衛生委員会 ● 相談窓口	P12・13 14・15・25
地域社会	環境保全、社会貢献活動	● 地域懇談会（年1回） ● ボランティア清掃（原則毎月）、海岸清掃（年1回）	P24

ビジネスモデル

ビジネスモデルの概要

下図は当社のビジネスモデルの概要について「投入資源」・「事業活動」・「産出物」・「成果及び影響」に分けて表現したものです。当社は持続的に価値を産み出す仕組みを維持・改善し、基本理念に掲げる「地球環境に配慮し、輸送文化を創造し、未来社会に貢献する」「お客様に信頼され、頼れるパートナーとして輸送・物流をリードする」企業を目指していきます。



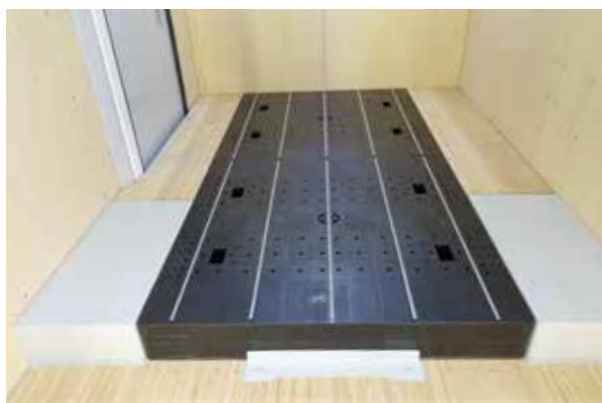
環境配慮商品

環境配慮商品の開発

当社では環境に配慮した商品として高積載を実現しているダブル連結トラックや低燃費を実現している空力改善ボデーを提供しています。

■小型電動キャブ付きシャシ用リヤボデー開発

各業界でカーボンニュートラルに向けた取組みが行われる中、運輸部門のCO2排出量の約4割を占める商用車のカーボンニュートラル化に向けて電動車の開発・普及が進められており、当社も小型電動キャブ付きシャシ用のリヤボデー開発をすることでその一助を担わせていただいております。今回のリヤボデー開発にあたりお客様のご要望をお聞きし、ウォークスルータイプのようなシャシの低床化による作業性重視ではなく、従来の2トン車のような床面フラット化や前壁構造とし、積載性重視のお客様のカーボンニュートラルに対応しております。

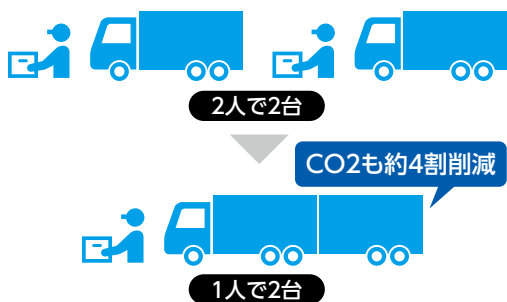


■ダブル連結トラック（フルトレーラー）

物流業界でもドライバー不足が問題となっており、また昨今の環境意識の高まりから物流段階でのCO2削減も課題として認識されています。このような背景から物流業界では1回の輸送でより多く運ぶことができるフルトレーラーの導入に向けた機運が高まり、試験段階を経て本格導入に向けて取り組みが進んでいます。試算によるとフルトレーラーはドライバー数の約5割削減と、燃料使用量（CO2発生量）の約4割削減となっており、現段階では使用路線は限られるものの普及によるメリットは大きいと言えます。当社では過去に前側のトラクター部分のみボデー架装を行っていましたが、今回後ろ側のトレーラー部分についても開発・設計・製造を行い、全長23.5mのダブル連結トラック（フルトレーラー）として市場投入しました。

— より効率的に多くの荷物を運ぶ —

乗務員2人で2台のトラックで運んでいた荷物を、
1人で2台分運ぶ。



お客様

生産能力強化

トランテックス古河工場は日野自動車古河工場の敷地内に2022年1月に立上げを行い、大・中型のVQウイング（メーカー完成車）の生産をしています。商品力強化のためポデーションを充実し、また同一敷地内で日野自動車が生産するシャシとの一貫生産により大幅なリードタイムの短縮を実現しており、お客様のご要望に一日でも早くお応えする体制ができあがりました。引き続き生産現場での改善活動を行い、高品質・短納期のモノづくりを進めていきます。



古河工場



DX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組み

DXとはデジタル技術を活用してビジネスの運用方法を革新し、価値を創出するプロセスです。当社でもお客様に喜んでいただける価値を創り出すため、DX化を継続的に取り組んでいます。

STEP1 アナログ業務からの脱却

紙ベースの情報をデータ化することでDX化の土台を作り、そのデータを活用します。

集計業務や繰り返しの事務作業はRPA化（定型業務の自動化）することで多くの情報を正確に短時間で処理できる仕組みを構築しています。

STEP2 業務フローのデジタル化

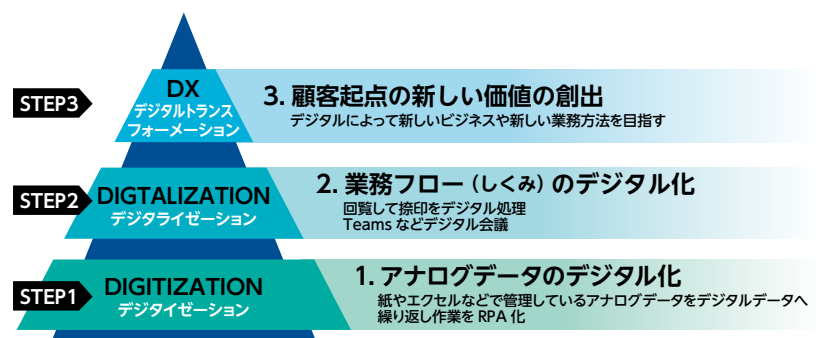
デジタル化には時間とコストがかかります。当社ではベンダー依存から脱却し業務実施部門自らがデジタル化できる環境を整えるため、ノーコード・ローコードで開発できる業務デジタル化クラウドサービスを導入しています。これまで時間がかかっていた書類による確認・承認作業も、デジタル化により格段にスピーディーとなりました。品質管理部門では紙管理での品質チェックをタブレットでのデータ管理へ切り替えることで業務の効率化も実現しています。

STEP3 DX化

DX化とはSTEP1、2で造り上げた各種デジタルデータを繋ぎ合わせ、お客様に喜んでいただける価値を創り出すことです。当社では古河工場でのメーカー完成車において見積りシステムを開発しており、仕様情報をデジタル化することで受注・仕様書作成・設計(RPA)・車検書類作成を自動化し各業務での大幅なリードタイムを短縮したことで安定した短納期での生産体制を実現しました。

また、DX化と並行して情報セキュリティ対策を強化し、外部からのサイバー攻撃から守るための対策や、情報漏洩等を防止するため全社的な教育・内部監査も実施しています。

● DX化に向けた3ステップ



お役立ち活動

営業部門は本業であるボデー販売はもちろん、お客様の様々なご要望・お悩みにお応えし、お客様の本業の発展に少しでも貢献させていただきたいと考え、「お役立ち活動」を行なっています。「お役立ち活動」の一環で、お客様に当社の持つノウハウをご提供させていただく「お役立ちメニュー」は18種類をご用意させていただいております。

【お役立ちメニュー】

- ウイングの取扱いについて
- テールゲートの安全操作
- 冷凍車の商品知識
- ロールボックス輸送の注意点
- ラッシングベルト使用時の注意点
- 乗務員様マナー研修
- 冷凍バンの取扱いについて
- 冷凍バンでの品質管理について
- ウイングへの安全な荷積みについて
- 荷卸し作業KYT
- リヤボデーお手入れ方法のご提案
- コンプライアンス講習
- 車輛後退時の安全確認講習
- 冷凍ボデーのメンテナンス
- ウイングボデーのメンテナンス
- トランテックス安全管理手法のご紹介
- トランテックス改善事例のご紹介
- 体調管理講習

【お役立ち活動実施事例のご紹介】

【大手広域担当室】

- 実施先：運送会社様
- 実施内容：・ロールボックスの操作
・テールゲートの安全な操作
- 参加人数：43名
- 参加者の声：
ロールボックスは操作方法で取り回し方が大きく変わる事を実感できた。ゲートは事故を起こさないよう慎重に操作するようにしたい。



【南関東営業部】

- 実施先：運送会社様
- 実施内容：車輛後退時の安全確認
- 参加人数：23名
- 参加者の声：
バックカメラでは見えない範囲や安全な後退運転方法を丁寧に教えていただき、たいへん役に立った。今後の運転に生かしたい。



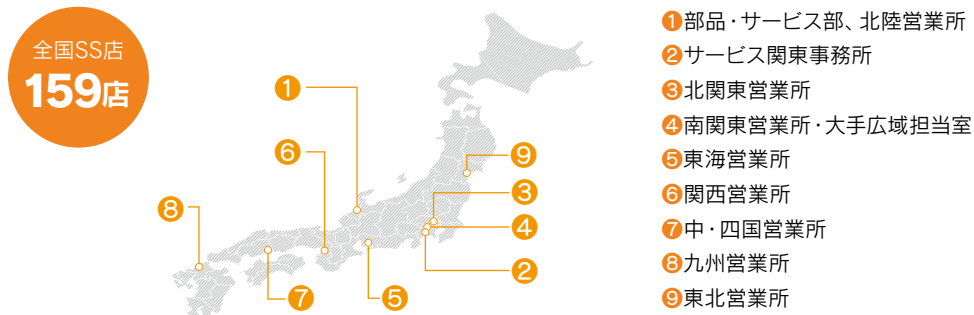
運行管理者等指導講習の実施

貨物自動車運送事業輸送安全規則第23、24条により運行管理者は2年に1回運行管理者一般講習（運行管理の業務を行うに必要な法令等の最新の知識を習得する事を目的にした講習）を受講する事が義務付けられています。当社はお客様が必要とする講習を開催することで仕事のお役に立つ事ができるとの考えから、2018年(平成30年)11月末に国土交通省大臣認定を取得し、本社工場の会議室を会場として講習の開催を始めました。北陸3県のユーザー様を対象に毎年3回程度の頻度で土曜日に開催しています。ご興味・ご関心のある方は当社ホームページで開催日程等をご確認ください。

アフターサービス

アフターサービスNO.1を目指して

アフターサービス部門ではお客様に商品をお届けした後も、定期訪問状況や有事発生時の対応状況を数値化し、アフターサービスNO.1に向けて活動しています。また、お客様の身近な存在として全国の販売会社様および全国150を超えるSS店様と連携しながら、すばやく正確な修理を実施し、お客様にご満足いただけるアフターサービスを目指しております。

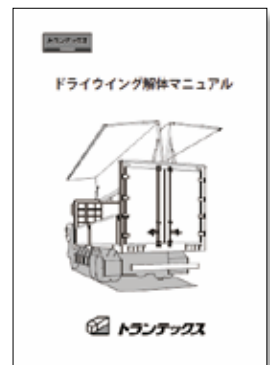


商品リサイクル

自動車リサイクル法の対象は乗用車・商用車(キャブ付シャシ)と一部の架装物となっています。当社の商品であるドライバン、保冷・冷凍バン、ウイングバン等はリサイクル法の対象外ですが、リサイクル処理ができるように一部の商品につきましては解体マニュアルを作成し当社ホームページで情報提供しています。

【解体マニュアル対象商品】

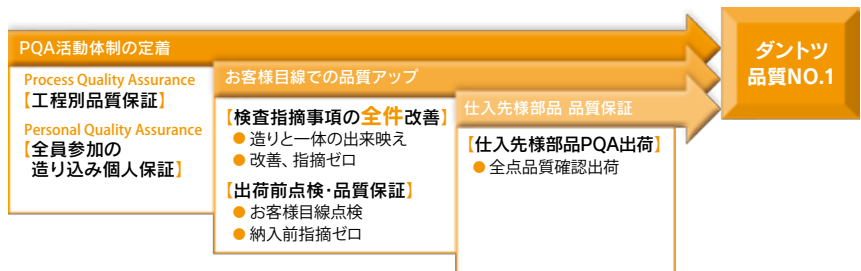
- ドライバン
- ドライウイング
- ウレタン注入発泡 保冷・冷凍バン
- ポリスチレン接着パネル 保冷・冷凍バン
- 冷蔵ウイング
- 幌ウイング
- 冷凍ウイング
- 平ボデー



品質マネジメント

品質管理活動方針

当社では①PQA活動体制の定着②お客様目線での品質アップ③仕入先様部品品質保証の3点を具体的な取組み方針とした「ダントツ品質NO.1」を品質管理活動方針としています。



品質管理体制

工程別品質保証をベースに、毎日開催する稼働会議（※）でも品質課題について関係者全員で共有しています。また、月1回、全役員が参加する品質会議も開催し、重要品質問題の対応状況等について意見交換も実施しています。

（※）生産部門・生産管理部門・品質保証部門・開発部門の責任者が参加し、前日の生産状況を振り返り対応課題の明確化等を行う会議体。



ISO9001認証取得

当社ではお客様目線での品質確保に向けた活動を続けてきていますが、その一環として品質マネジメントシステムに関する国際規格であるISO9001の認証取得をしています。外部認証機関による審査を通じて日々の品質活動を客観的に評価いただき、そこで得た改善点をこれからの自分たちの品質活動の向上に活かし、お客様の満足につなげていきたいと思えます。

- 組 織 名 株式会社トランテックス
- ・事業所名 本社及び工場（石川県白山市徳丸町670番地）
対象業務 トラック車体の開発・設計・製造
 - ・事業所名 山島工場（石川県白山市矢頃島町1025番地）
対象業務 完成車の出荷及び特装業務並びに事故車の修理点検
 - ・事業所名 古河工場（茨城県古河市名崎1番地）
対象業務 トラック車体の製造

リコールへの取り組み

商品に問題が発生し、処置が必要と判断した場合には、お客様の安全と被害の拡大防止を最優先に部品交換、改修（点検、修理等）を迅速に実施しています。またリコール情報はトランテックスのホームページ上に開示しています。

不具合対応状況

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
リコール ^{※1}	3件	2件	1件	1件	1件
改善対策 ^{※2}	0件	0件	0件	0件	0件
サービスキャンペーン ^{※3}	0件	0件	0件	0件	1件

※1 リコール

道路運送車両の保安基準に適合していない又は適合しなくなるおそれがある状態で、その原因が設計又は製作過程にあると認められるときに、自動車メーカー等が、保安基準に適合させるために必要な改善措置を行うこと

※2 改善対策

不具合が発生した場合に安全の確保及び環境の保全上看過できない状態であって、かつ、その原因が設計又は製作過程にあると認められるときに、自動車メーカー等が、必要な改善措置を行うこと

※3 サービスキャンペーン

リコール届出や改善対策届出に該当しないような不具合で、商品性・品質の改善措置を行うこと

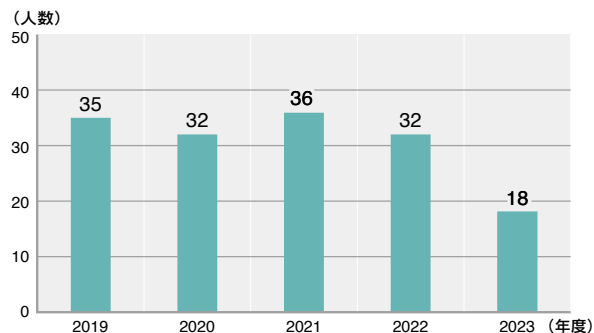
従業員

雇用促進

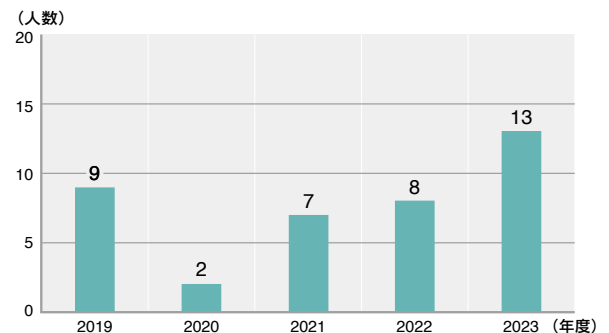
新規正社員雇用への取り組み

多様な人材を様々な年代・経歴から採用するため、新卒採用に加えて即戦力としての中途採用、そして期間従業員からの正社員登用を積極的に行っております。2023年度は大卒・高卒を含めた新卒採用で18名（女性3名含む）、中途採用で13名、期間従業員の正社員登用で8名の採用を行いました。

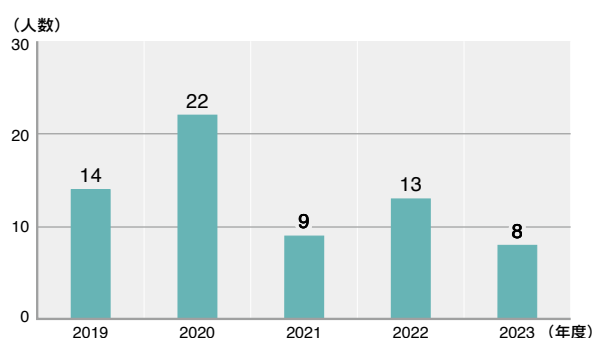
【新卒採用数の推移】



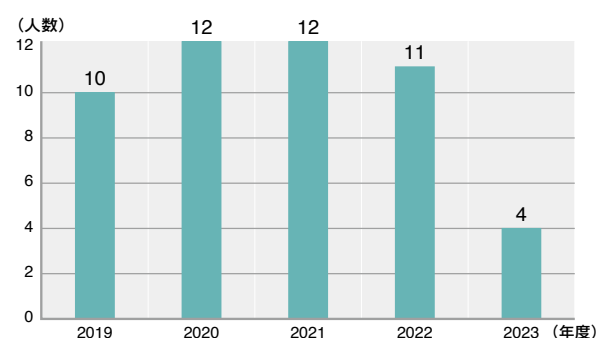
【中途採用数の推移】



【期間従業員の正社員登用数の推移】



【女性採用数の推移】



育児休暇の取得状況

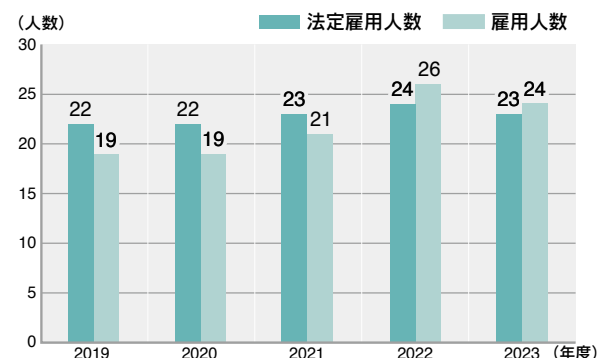
育児休暇の取得対象者45名に対して実際の取得者は16名でした。仕事と育児を両立して活躍できる職場づくりに向けて、より制度を利用しやすい職場環境づくりを進めていきます。

	人 数
育児休暇を取得する権利を有していた従業員の総数	45 名
育児休暇を取得した従業員の総数	16 名

障害者雇用の状況

製造部門を中心に働きやすい環境整備を進め、積極的に障害者雇用を進めています。2023年度は障害者法定雇用人数23名に対して24名の雇用となっていますが、これからも一人でも多くの雇用・定着に繋がるように社内改善を進めるとともに各種団体のご支援を受けながら、取り組みを進めていきます。

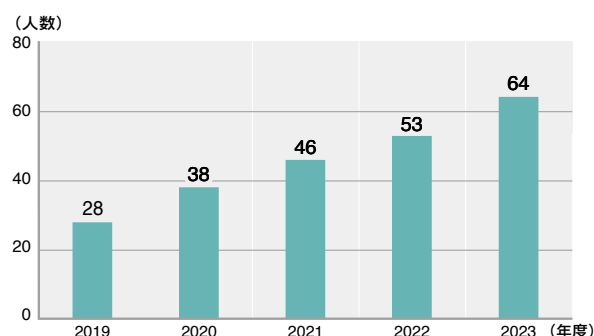
【障害者雇用人数の推移】



60歳定年後再雇用の状況

製造・設計・販売等の各段階で品質維持向上のため、技術に習熟し経験を積み重ねた従業員の確保が必要とされ、また一方で、60歳定年後もこれまで培った技術・経験を活かして働きたいという方にも安心して働ける職場の整備も必要となっています。当社では定年退職の再雇用を積極的に進めており、2023年度は64名を再雇用させていただいております。

【60歳定年後再雇用在籍者数の推移】



安全衛生・労使関係

安全衛生への取組み

当社は「安全は全てに優先する」を安全衛生基本理念に掲げ、総括安全衛生管理者をトップに、産業医と連携しながら「人への安全意識向上」「車両安全対策」「法令遵守」「快適職場環境づくりの推進」「心身の健康管理」「通勤災害の防止」などの観点から各種取組みを実施し、自主自立の安全文化構築を進めています。2023年度の災害発生件数は12件、度数率は1.88となりました。引き続きゼロ災害達成に向けて全社をあげて取り組んでいきます。

【2023年度の主な活動】

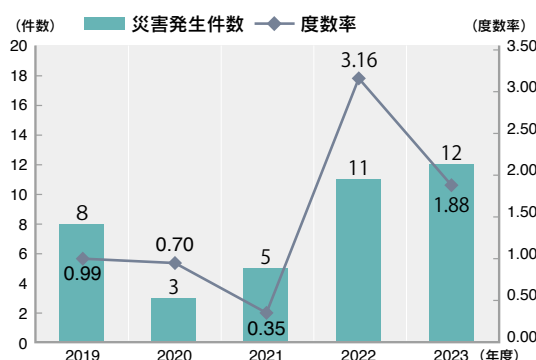
活動内容	
人への安全意識向上	危険撲滅やりきり活動の継続
	安全パトロール強化による安全感向上
	安全プロセスシート活用による自己診断と弱みの改善
	各職場での観察・対話型パトロールの実施
	教育、啓蒙活動による安全人間づくり
車両安全対策	車両移動ルール確認
法令遵守	遵守状態の維持管理
	溶接ヒュームの法改正対応
快適職場づくりの推進	熱中症対策の実施
心身の健康管理	定期健康診断結果に基づく健康指導
	メンタルヘルス対策の推進
	講演会やオンラインセミナー参加による健康知識の習得
通勤災害の防止	交通ルール順守徹底

安全衛生基本理念

「安全は全てに優先する」

- 安全なくして、企業の発展なし
- ルールを守らずして、安全なし
- プロとしての自覚なくして、安全なし

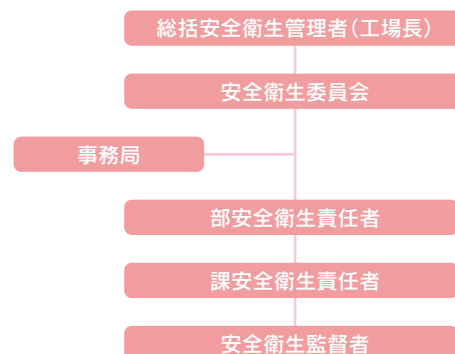
【災害発生件数と度数率】



安全衛生組織

当社では安全衛生活動を円滑に推進するため、工場長を委員長として会社側従業員（※）、労働組合側従業員（※）、そして産業医を構成メンバーとした安全衛生委員会を本社工場および古河工場で毎月1回開催しております。尚、本社工場安全衛生委員会には各子会社代表者にも参加いただいています。

（※）会社側従業員と労働組合側従業員の人数は同数



安全衛生関係の講習会・講演会の実施

各職場の管理監督者を対象にAEDの使い方および心臓マッサージの講習会を実施しました。今後も継続的に実施し、従業員の体調急変時にも冷静に対応できる人材育成を行っていきます。また、全国労働衛生週間行事の一環として当社産業医を講師としてメンタルヘルスをテーマに講演会を開催し、セルフケアだけではなく、上司からの気付き、声かけなどラインケアの重要性についての理解を深める機会となりました。

●AED講習会



本社工場（65名参加）



古河工場（40名参加）

労使関係

トランテックスとトランテックス労働組合は定例の労使会議を持ち、様々な検討を重ね、労働条件の改善に努めています。また、労働組合側からの職場環境改善要求を通じて一歩ずつ改善を進めています。

人材育成

人材育成の取組み

当社従業員の共通の価値観として「私たちの志（情熱・挑戦・思いやり）」と「私たちの実行（創意工夫・進化・結束）」を掲げ、従業員のスキルや能力の開発・向上のため階層別研修や専門教育を実施しています。これからも従業員一人ひとりがもつ能力を十分に発揮できるように、社内教育の改善・充実を行っていきます。

【トランテックス・スピリット】

私たちの志

情熱
出来ない言い訳はしない。課題・問題を解決するため、全力を尽くして取り組みます。

挑戦
技能・能力を高めるため、自ら高い目標を掲げ挑戦します。

思いやり
後工程やお客様に満足していただくため、常に細心の心配りをします。

私たちの実行

創意工夫
品質向上のため、あらゆる知恵を絞り、スピード感を持って、自らが進んで改善を行います。

進化
今日よりも明日、より成長するため、何事にも自ら進んで行動します。

結束
組織力を高めるため、自ら進んで仲間と協力します。

【階層別教育体系】

	事務職	技術職
部長クラス	部・次長クラス研修	
次長クラス		
課長クラス	課長クラス研修	
中堅クラス	係長・主任 クラス研修	新任工長研修
		新任職長研修
		新任指導員研修
		TPS研修
		QC研修
		TWI研修
		対話型巡視管理監督者研修
新入社員	新入社員研修	

【2023年度に実施した主な階層別研修】

	内 容	受講者数
階層別研修	新入社員研修・フォローアップ研修	18名
	ハラスメント研修	142名
部門別研修	生産部門 工職長安全再教育	52名
	生産部門 新任職長研修	5名
	生産部門 新任指導員研修	6名
	全部門 TPS研修	13名



環 境

環境マネジメント

環境基本方針

トランテックスは地球環境の保全を経営における最重要課題の1つであるとの認識のもと、2003年10月、企業理念に基づく「トランテックス地球環境憲章」を制定し、環境保全活動を積極的に進めています。

■基本方針

1. 地球環境の保全を総合的かつ長期的に進める

地球環境問題は、重要かつ深刻であるとともに、自動車は広い範囲でこの問題に関わっているとの認識のもとに、全社を挙げて、仕入先等の関係者とも協力して、開発から生産、販売、使用、廃棄に至る全ての段階における環境への影響を考慮した環境保全のための対策を、長期的視点に立って推進する。

2. 地球環境の保全を広い視野で身近な行動から進める

豊かで住みよい地球をめざして、事業活動の範囲内だけでなく、社会においては良き市民として、地域社会においては良き隣人として、環境保全のための行動を進める。

■行動指針

1. 環境負荷のより小さい事業活動をめざす

- 工場・事業所の立地における環境への配慮
- 地球環境にやさしいトラックボデーの開発
- 排出物を極力出さない生産活動
- 省エネルギーと省資源、リサイクルの推進

2. 関係者と協力しながら進める

仕入先、関係会社等と協力し、事業活動の様々な段階において、また、事業所の内と外とにおいて、環境保全に努める。

3. 社会への貢献を心がける

社会においては良き市民として、また、地域社会においては良き隣人として、社会や地域における環境保全の諸活動に協力する。

4. 自己啓発を図る

社会に対して開かれた企業として、また、企業人であるとともに良き市民として、地球環境問題に関して広く社会に学び、会社ならびに社員ともに自己啓発を図る。

環境方針

当社では基本理念、トランテックス地球環境憲章及びトランテックス地球環境行動計画等を受けて、環境に与える影響（著しい環境影響）、関連法規、利害関係者との関係等を配慮し、継続的改善及び汚染の予防のための基本方針（行動原則）として、環境方針を定めています。

トランテックスは、トラックボデーなどの開発・生産・販売・サービスを通じて、環境に与える影響を常に認識し、白山の豊かな自然や社会と調和する企業を目指して、全員参加で環境保全活動を推進します。

1. 私たちは、環境管理システムの効果的な運用と継続的改善をはかり、環境汚染の予防に努めます。
2. 私たちは、環境に関する法規制や私たちが守ると約束した協定・指針などを遵守し、社会とのつながりを大切にします。
3. 私たちは、環境への排出物や廃棄物を抑え、リサイクルを推進し、エネルギーや資源の効率的な利用を進めます。
4. 私たちは、環境に負荷を与える有害な物質の使用量を減らし、ライフサイクルを考慮した環境に優しい製品の開発を進め、提供します。

ISO14001認証取得

当社は環境マネジメントシステムに関する国際規格であるISO14001の認証を取得しています。

組 織 名 株式会社トランテックス

- ・事業所名 本社及び工場（石川県白山市徳丸町670番地）
対象業務 トラック車体の開発・設計・製造
- ・事業所名 山島工場（石川県白山市矢頃島町1025番地）
対象業務 完成車の出荷及び特装業務並びに事故車の修理点検
- ・事業所名 古河工場（茨城県古河市名崎1番地）
対象業務 トラック車体の製造

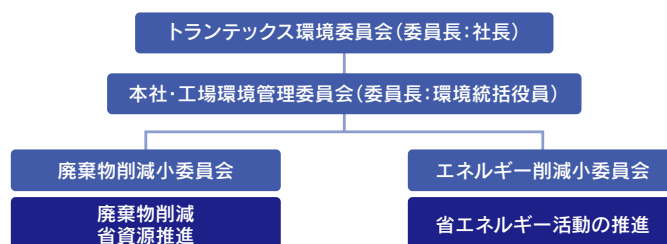
環境活動と実績

【2023年度の主な活動】

活動項目		活動実績	関連項
社会の構築 環境保全と 自然共生	自然共生社会構築に資する 社会貢献活動の推進 社会貢献活動の実施	● 海岸清掃イベント「クリーンビーチいしかわ」参加 ● 本社工場周辺清掃活動の実施	P24
	生産活動における省エネ活動の徹底と 温室効果ガス排出量の低減 生産CO ₂ の低減	● 生産部門を中心とした生産性改善実施 ● ボイラー燃料のLPG化推進 ● エア漏れ点検	P20・23
低炭素社会の構築	物流活動における輸送効率の追求と CO ₂ 排出量の低減 物流CO ₂ の低減	● 一部区間での高速道路使用による効率的な完成車輸送 ● 部品輸送時の積載効率改善による便数低減	P20
	生産・物流における廃棄物の低減と 資源の有効活用 廃棄物の低減	● 歩留り改善実施 ● 逆有償アイテムの有償処理化の目途付け	P20・22
循環型社会の構築	物流梱包材の低減	● 同一行き先同梱包による梱包材低減	P20・22
	水使用量の低減	● 埋設配管の漏水箇所修繕	P20・22
環境経営	環境教育活動の充実と推進	● 各部署での教育実施	P19
	環境情報の積極的な開示と コミュニケーションの充実	● CSRレポート発行 ● 近隣町内会役員の方を交えての地域懇談会実施 ● 工場見学の受入れ	P24
	異常苦情ゼロ・リスクの最小化	● 工場内・外周の定期的な環境パトロールの実施 ● 外部専門業者による環境測定の実施	—
	環境マネジメント	● 環境監査実施 ● 環境コスト把握 ● 地下水保全	P18・19

マネジメント推進体制

トランテックスは環境保全を推進するため、全社の組織として社長を委員長とする「トランテックス環境委員会」を設置し、基本方針の決定と諸活動の総合推進を図っています。また、下部組織として本社・工場環境管理委員会と2つの専門委員会を設置し、本社・工場環境管理委員会は、原則毎月開催とし各種課題の進捗管理・検討・審議等を行っております。また、2つの専門委員会は、事業活動による環境負荷の低減として大きな課題であるCO₂低減・廃棄物低減などの個別の専門テーマに対して、部門横断的な視点からアプローチをしております。



環境会計

環境保全コストおよび効果を定量的に把握し、環境保全活動に効果的かつ継続的に取り組むため、環境会計に取り組んでいます。尚、環境保全コストは①投資額は対象期間の投資のみとする②経費の中に減価償却分は含めない③環境保全以外の目的を含んでいる設備投資や費用については、環境対応分が明確に把握できるもののみ計上することとしました。環境保全対策にともなう経済効果については、把握可能な項目のみ集計しました。

【環境保全コスト】

[単位:百万円]

分 類		2021年度		2022年度		2023年度	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
事業エリア内コスト	公害防止コスト	14.9	11.0	29.8	12	7.7	11.5
	地球環境保全コスト	81.8	—	—	—	6.2	—
	資源循環コスト	2.9	83.8	—	71.2	1.7	95.6
上・下流コスト		—	0.3	—	—	—	—
管理活動コスト	EMSの整備、運用	—	0.9	—	1.6	—	1.2
	環境情報の開示・広告	—	0.3	—	0.2	—	0.2
	環境測定	—	3.7	—	3.2	—	3.5
	従業員の教育	—	—	—	—	—	0.1
	景観保持	—	—	—	—	—	—
研究開発コスト		—	3.0	—	—	—	4.0
社会活動コスト		—	—	—	—	—	—
環境損傷対応コスト		—	—	—	—	—	—
合 計		99.6	103.0	29.8	88.2	15.6	116.1

【環境保全対策にともなう経済効果】

[単位:百万円(—は十万円未満)]

	2021年度	2022年度	2023年度
リサイクルによる事業収入	201.1	159.3	220.1
省エネルギーによるエネルギー費の節減	0.0	0.3	1.6
省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	7.4	13.7	—

【物量効果】

	2021年度	2022年度	2023年度
CO ₂ 低減 (t-CO ₂)	3277.2	—	—
廃棄物総排出量低減 (t)	167.7	906.7	—
PRTR対象物質排出量・移動量削減 (t)	4.9	14.4	—

環境監査

環境マネジメントシステムの適合性・有効性を客観的に評価するため環境内部監査を行い、外部審査機関による審査を受審しています。また、両監査で取り上げられた内容はマネジメントシステム改善に活用しています。



内部監査

環境教育・訓練

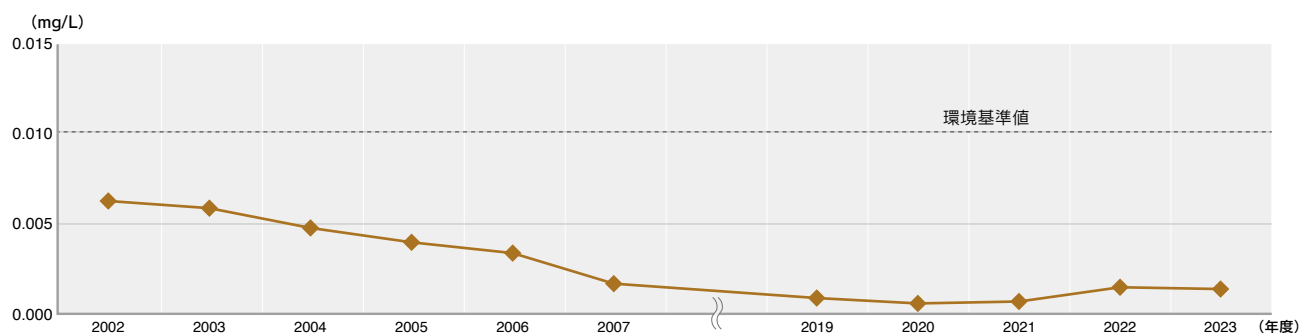
環境教育として各所属長を対象とした管理者研修、各職場単位での研修、新入社員研修を行っています。また、環境事故は環境汚染につながるだけでなく、近隣住民の方々や生産活動にも大きな影響を及ぼす可能性があることを再確認するため、各職場単位で毎年、緊急時対応訓練を実施しています。



漏洩緊急時の訓練

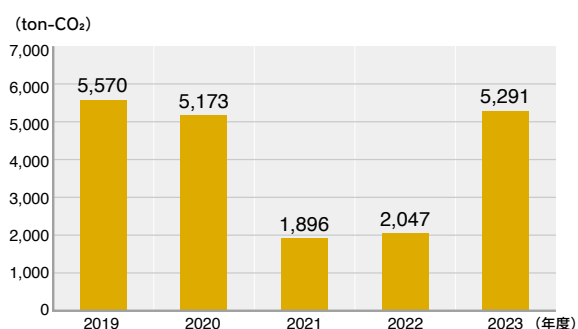
地下水保全への取り組み

当社では過去に有機塩素系化合物であるテトラクロロエチレンを使用しており、1996年に使用を全廃しましたが1998年に本社・工場敷地内の1ヶ所で環境基準を上回るレベルが確認されました。1998年以降行政指導の下、積極的に浄化対策を進めており、土壌内の汚染ガスの吸引及び地下水揚水による浄化対策の結果、濃度は低位で安定しております。

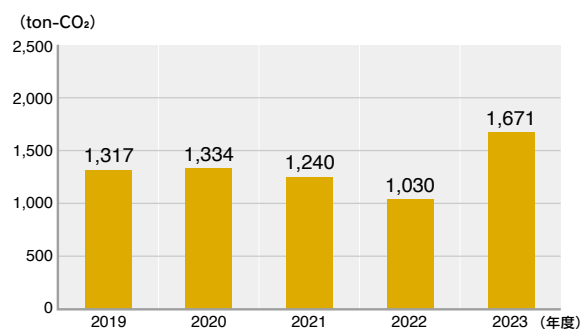


環境パフォーマンスデータ

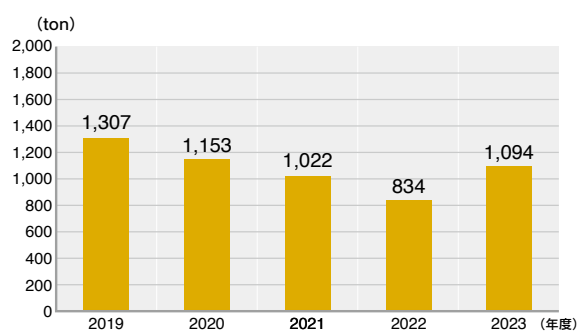
【生産CO₂排出量】



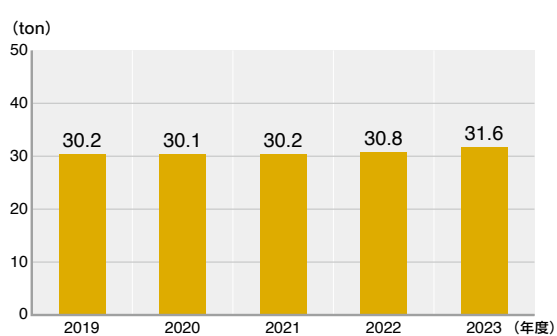
【物流CO₂排出量】



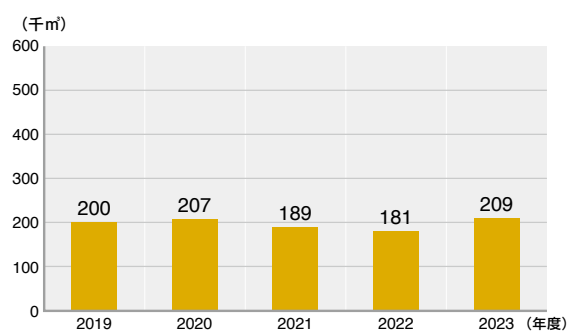
【廃棄物排出量】



【物流梱包包装資材総量】



【水使用量】

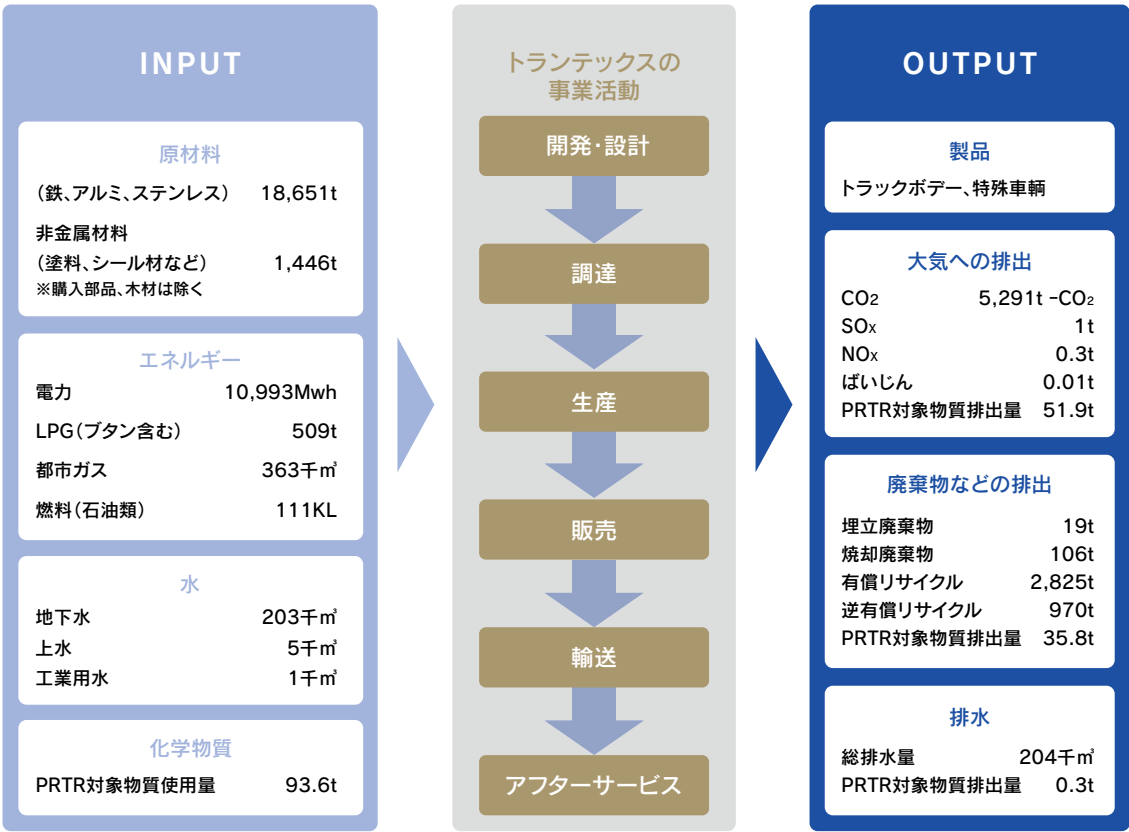


事業活動と環境影響

事業活動と環境影響

事業活動における投入資源（インプット）と排出による環境負荷（アウトプット）を定量化し、環境への影響を把握して、環境負荷低減活動に活用しています。

【事業活動における2023年度の投入資源と環境への排出】

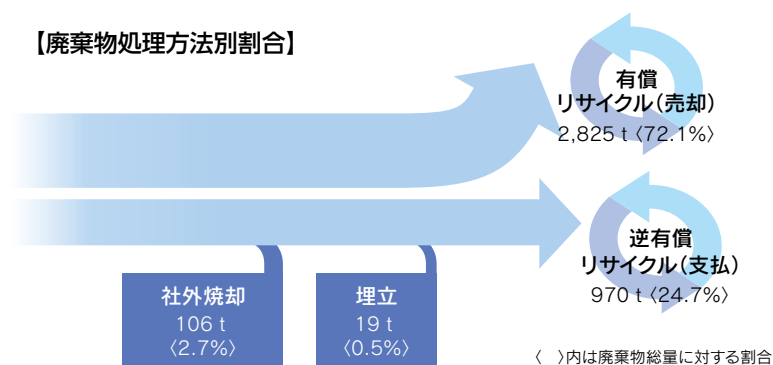


PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) : 有害化学物質排出・移動登録制度
SO_x : 硫黄酸化物 NO_x : 窒素酸化物

廃棄物の処理方法種類と重量

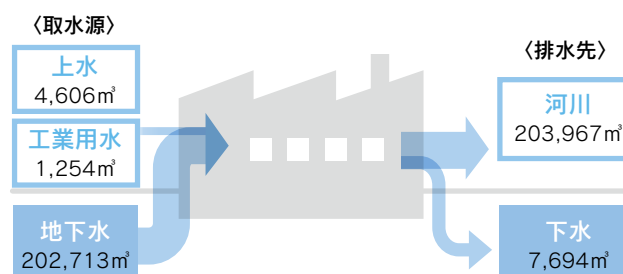
工場内で発生する廃棄物については限りある資源を有効活用していく観点から地道な活動を通して焼却処理や埋立処理からリサイクル処理へのシフトを進めています。

【廃棄物処理方法別割合】



水源別取水量と排水先

工場内で使用される水は主に塗装工程や検査工程で使用されており、地下水や工業用水でまかなっています。使用後は廃水処理設備で適正な水質に戻してから河川放流しており、定期的に外部の専門業者に依頼して水質検査を行い異常がないことを確認しています。

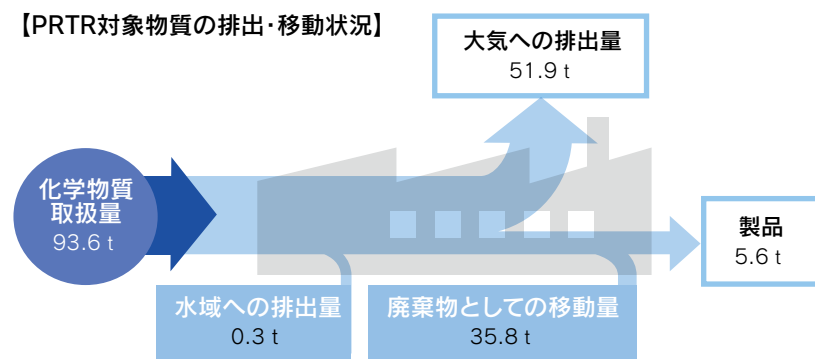


項 目	法基準値	2023年度測定値 (年間最高値)
P H	5.8以上8.6以下	6.5-6.9
B O D	30mg/L 以下	17mg/L
C O D	—	24mg/L
S S	110mg/L 以下	3mg/L 未満
n-ヘキサン動植物油	30mg/L 以下	1mg/L 未満
n-ヘキサン鉱油類	5mg/L 以下	1mg/L 未満
亜鉛	2mg/L 以下	1.4mg/L
溶解性マンガン	10mg/L 以下	2.3mg/L
鉛	0.1mg/L 以下	0.01mg/L 未満
六価クロム	0.2mg/L 以下	0.05mg/L 未満
フッ素	8mg/L 以下	0.5mg/L
アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物および硝酸	100mg/L 以下	9.5mg/L

大気・水質への化学物質の影響

当社では生産工程での塗料や接着等の使用により大気・水質に影響を与える化学物質を取り扱っています。自主的な活動はもちろん、各サプライヤー様と協力しながら、取扱量を減らす努力を続けていきます。

【PRTR対象物質の排出・移動状況】



温室効果ガス使用量 (kg)	
HFC125	465.6
HFC134a	124
HFC143a	8
HFC32	70.4
HFC1234yf	192

(*) 4重金属を含む11禁止物質
鉛 (Pb)
水銀 (Hg)
カドミウム (Cd)
六価クロム (Cr+6)
アスベスト
PBB (ポリ臭素化ビフェニル)
PBDE (ポリ臭素化ジフェニルエーテル)
デカBDE (デカ臭素化ジフェニルエーテル)
HBCD (ヘキサブロモシクロデカン)
PFOS (パーフルオロオクタンスルホン酸)
DMF (フマル酸ジメチル)

環境負荷物質(SOC)(*)使用禁止の取組み

当社は2008年生産分から商品に含まれる環境負荷物質全廃(*)を行い、現在は購入する材料・部品の環境負荷物質の有無を事前に確認する体制をとっています。(お客様指定品や一部機器は除きます。)

エコ電力導入

本社工場は2021年度から再生可能エネルギー 100%由来の電力を一部導入しています。また、古河工場も2022年度からグリーン電力証書を利用した電力を導入しました(*)。限りある資源・エネルギーの使用を少しでも減らすため、これからも使用電力量の削減を続けていきます。

* 古河工場は日野自動車古河工場の電力を利用しており、日野自動車古河工場が2022年4月よりグリーン電力証書の購入を開始

調 達

基本的な考え方

当社は当社の製品が業界トップの位置を確保できるよう、仕入先の皆様と協力して、ともに発展していくことをめざしています。仕入様には、コスト・品質・納期の最高レベル実現に向けた調達方針を提示するとともに公正な取引の維持を心がけています。

仕入先様との交流

当社では毎月、仕入先様と仕入先会議を開催し、生産計画の情報提供を定期的に行っています。その他、工場内および周辺での交通ルールの遵守やマナー向上の呼びかけなど、地域社会との共生に係わることについても展開を行っています。

また、毎年1回、仕入先総会を開催し、当社の今後の方針・調達方針を共有しています。また年間を通じて原価改善活動や品質管理活動にご功績のあった仕入先様を表彰させていただいております。



仕入先総会



受賞者の皆様

調達方針

当社の商品が、最高の価格競争力を確保できるように、広く世界に門戸を開き、最適な仕入先を選定することにより、①ミニマムな価格 ②最高の品質 ③タイムリーな納期 を実現し、商品の拡販と当社の収益拡大に貢献する。

社会貢献活動

清掃活動

地域貢献活動として、石川県海岸全域の清掃活動「クリーンビーチいしかわ in はくさん」への参加と工場周辺の清掃活動を継続的にを行っています。年1回開催されるクリーンビーチいしかわには従業員のご家族も参加し、今回は約80名が参加しました。また毎月実施している工場周辺の清掃活動には、毎回多くの従業員が参加し環境美化を進めています。今後も地域イベントへの積極的な参加や実施を続け、環境美化に貢献していきたいと考えております。



工場周辺の清掃活動



クリーンビーチいしかわ

地域懇談会の開催

年に1回、近隣町内会の役員様をお招きして地域懇談会を開催し、事業紹介や環境への取り組み事例紹介、工場見学を通じて会社への理解を深めていただいております。2023年度は近隣町内会から5名の役員様に越えいただき、忌憚のない意見交換をさせていただきました。地域社内とよりよい関係作りを進めていくため、今後も定期的 to開催していきます。



コンプライアンス

当社ではコンプライアンスの実践を経営の重要課題の1つと考えており、全社的なコンプライアンス風土醸成に向けた取り組みを継続的に実施し、あらゆる場面で公正な判断・活動ができる企業集団を目指しています。

「トランテックス行動指針」

「トランテックス行動指針」は、基本理念の内容を受けて、各ステークホルダーの皆様の期待に応えるために「社員一人ひとりがどう行動すべきなのか」を具体的に明記した内容となっております。

私たちは、この「トランテックス行動指針」を日々の業務の手引書として活用し、また合わせてコンプライアンスガイドブックを活用することで、法令順守を徹底していきます。そして、各ステークホルダーの皆様の期待にお応えしたいと考えています。



コンプライアンス教育

定期的なコンプライアンス教育を行い、問題発生未然防止とルールを守る職場風土づくりをしています。また取り扱う題材は業務に関連が深いものや、近時のトピックスを中心とするように工夫し、コンプライアンス問題未然防止に向けたレベルアップを図っています。

対 象	内 容
役員・管理職	管理職のコンプライアンス
管理職	管理者向け情報セキュリティ
全従業員	情報セキュリティ、ハラスメントなど
営業・サービス担当者	下請法、贈収賄防止など



各職場単位で全従業員を対象に教育を実施

コンプライアンス相談窓口

従業員がコンプライアンスに関する問題に遭遇した場合、職場を補完する相談先としてコンプライアンスオフィサーを設置し、社内への周知を図っています。従業員は直通の電話またはE-mailにてコンプライアンスオフィサーに直接相談・報告することができます。また、日野グループとして、法律事務所への相談窓口や、トヨタグループ各社向けのスピークアップ相談窓口（24時間受付）も設けています。

【従業員の相談・報告ルート】



コーポレートガバナンス

当社は基本理念に基づき、各ステークホルダーの皆さまの期待と信頼に応えるため、コーポレートガバナンスの強化を経営の最重要課題の1つと考えております。具体的には経営の透明性を確保するため、株主総会・取締役会・監査役協議会・会計監査人等の機関設置を行い、また迅速な環境変化への対応と意思決定を図るため、経営判断に基づく業務執行レベルの判断を行う執行役員会を毎週開催するなどの体制を構築しております。

取締役会

会社法で定める重要事項や経営に係わる重要事項の審議決定機関として、原則毎月1回開催しています。また、取締役の任期は、経営責任を明確にするため1年とし、非常勤取締役を1名選任しております。

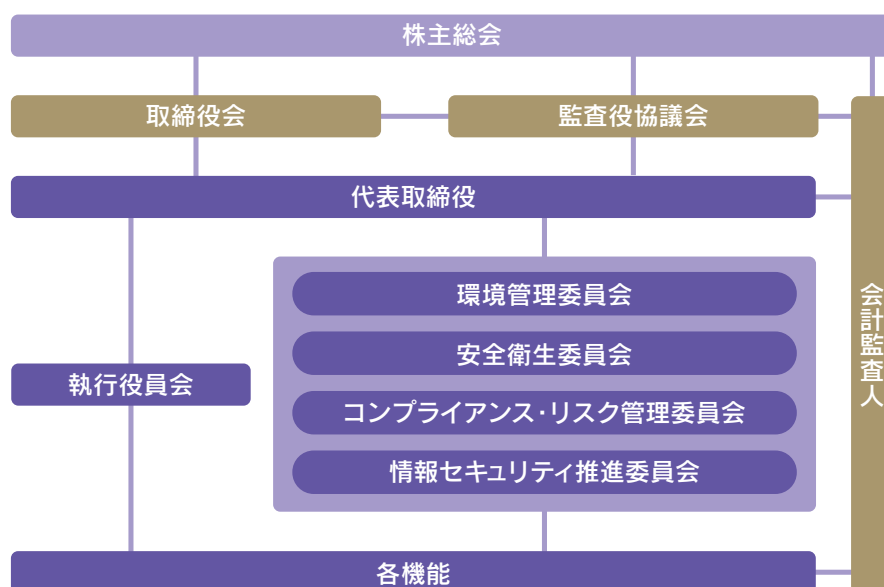
監査役協議会

取締役会の監督機能をより強化するため、常勤監査役以外に2名の非常勤監査役を選任しております。

会計監査人

2023年度はPwCあらた有限責任監査法人を選任いたしました。

【コーポレートガバナンス体制図】



編集にあたって

本レポートは、当社を取り巻くステークホルダーの皆様にご社の活動を深く理解していただき、さらなる信頼をいただくことを目的としています。お読みいただいた皆様とのコミュニケーションツールとして、わかりやすく表現するよう心がけました。

対象範囲・対象期間

原則として2023年度（2023年4月～2024年3月）の実績や取り組みを対象としております。但し、一部の内容については、本レポート発行直前までの活動も記載しています。

参考ガイドライン

- ・環境省「環境省ガイドライン（2018年度版）」
- ・GRIスタンダード（Global Reporting Initiative）



Corporate Social Responsibility Report 2024

本報告書の内容や当社の環境への取組みなどについて、ご意見、ご質問などがございましたら、下記までお問合せください。

株式会社 **トランテックス** 総務・人事部

〒924-8580 石川県白山市徳丸町670番地
TEL(076)274-2806 FAX(076)274-8191

ホームページアドレス <http://www.trantechs.co.jp/>

発行日 2024年10月

※この報告書はトランテックスホームページ上でもご覧いただけます。



古紙配合率100%再生紙を使用しています

